

トヨタ、ベア見送り

春闘集中回答 前年割れ相次ぐ

新型コロナ不安

2020年春闘は11日、集中回答日を迎えた。新型コロナウイルスの感染拡大、相場づくりをリードする自動車や電機などの大手企業が労働組合の要求に答える透明感が強まる中、トヨタ

◆主要企業のベア回答状況

	社名	要求	回答	前年の回答
自動車	トヨタ自動車	非開示 総額 1万1000円	ゼロ 総額 8600円	非開示 総額 1万7000円
	ホンダ	2000円	1500円	1400円
	日産自動車	3000円	1000円	3000円
電機	日立製作所	3000円	1500円	1000円
	パナソニック		1000円	
	三菱電機		1000円	
	富士通		1000円	
	NEC		1000円	
鉄鋼	日本製鉄	(20年度) 3000円 (21年度) 3000円	ゼロ	(18年度) 1500円 (19年度) 1500円
	造船・重機	IHI	3000円	1000円

※トヨタの総額はベアに定昇分などを含めたもの。
日産はベアに相当する賃金改善分

20年3月11日朝 日夕

春闘集中回答 トヨタはベアゼロ

春闘は11日に集中回答日を迎え、大企業の経営側が労働組合の要求に回答した。米中対立の長期化による業績落ち込みに加え、新型コロナウイルスの影響も見逃せず、前年実績を下回る回答が続出した。

トヨタ自動車は、賃上げ額のうち、ベアスアップ（ベア）をゼロとする回答を出した。ベア見送りは7年ぶり。定期昇給、手当などを含む総額は月1万1000円の要求に対し、月8600円を回答。手当の内容も異なるため単純比較はできないが、前年実績を2100円下回った。一時金（ボーナス）は6・5カ月分で満額回答だった。

自動車基本給を底上げするベアスアップ（ベア）は7年ぶりに見送るなど、厳しい回答が相次いだ。トヨタは、定期昇給分を含めた総額で月額平均8600円を回答した。ベアは2000円の要求に対し、組合が要求した1

万1000円に届かなかった。トヨタの豊田章男社長は「今回の回答は組合にとって『大変厳しい』と受け止められたと思う。これから競争の激しさを考えれば、既に高い水準にある賃金を引き上げ続けるべきではない」とコメントした。業績が悪化している日産自動車は30000円の要求に対し10000円を回答し、前年実績の30000円を大きく下回った。ホンダは20000円の要求に対し

15000円を妥結した。電機大手は、要求と回答が横並びの「統一交渉」が慣例で、労働側は一律で30000円を要求した。経営側は10000円以上を回答する方針で一致していたが、金額ははつきりが出た。

日立製作所は30000円の要求に対し15000円を回答。三菱電機と富士通は前年と同じ10000円で妥結した。パナソニックは前年と同じ10000円を回答した。春闘が厳しい結果となったのは、米中貿易摩擦による世界経済の停滞に加え、一部は確定拠出年金への企業の掛け金にあてる。東芝はベアの10000円に加え、語学の習得などに使える社内のポイントを300円分、上積みした。日本製鉄など鉄鋼大手3社はそろって7年ぶりにベアを見送った。2年ごとに2年分を交渉しており、労働側は20、21年度に月額30000円ずつ引き上げるよう要求していた。

新型コロナウイルスが拡大し、各社の業績を圧迫するとの見方が急速に増しているためだ。

20年3月11日道 新夕

トヨタ ベア7年ぶり見送り

2020年春闘は11日、主要企業の集中回答日を迎えた。トヨタ自動車はベアスアップ（ベア）に相当する賃金改善を13年以来、7年ぶりに見送ると回答した。日本製鉄など鉄鋼大手3社も7年ぶりにベアを実施しない。日産自動車の回答も前年実績を下回った。米中貿易摩擦に加え、新型コロナウイルスの感染拡大で先行きには急速に不透明感が高まり、賃上げを抑制する企業が相次いだ。ダイキン工業は新型コロナウイルス対応に集中するとして労使交渉を中断した。

トヨタは前年実績より2100円少ない1人平均8600円の賃上げを労働組合に回答した。ベアは実施しない。要求は定期昇給とベア相当分を含めた総額で平均1万1000円だった。年間一時金（ボーナス）は要求通り6.5カ月分を満額回答した。